



辰美っ子の学力向上に向けて

3学期も中盤がすぎ、いよいよそれぞれの学年での総仕上げ、まとめの時期になってきました。本年度は、朝の学習タイムなどで基礎学力の向上を図ったり、それぞれの先生が「わかる」「できる」「楽しい」授業をめざして様々な工夫を凝らして取り組んできました。

全校的には、今年度「朝の学習タイム」の取組を継続してきました。

朝の学習タイムで

本年度から、朝の活動では木曜日と金曜日に、学習タイムを取り入れました。この時間では主に計算や漢字のプリントなどを行いました。子どもが、意欲を持って取り組めるようにクイズやゲーム感覚で楽しく進められるようなプリントも用意しました。この朝の学習の時間と授業の中で繰り返し学習や補足的な学習を行うことで「わかる」喜びが育まれ、基礎基本のより確実な定着を図りました。

本号では特にご家庭でご配慮いただきたいことを3点紹介します。

生活の中で教える

「人間は体全部で勉強するんだよ。脳は、それを調整する役なんだ。」と子どもたちに生活体験の大切さを教えることがあります。

日常的に使われる単位や時計の見方は、まさに生活の中で覚えていくものです。単位を覚えるには実感することが一番大事です。机の上の勉強だけでは、なかなか理解できない100mと1kmの長さの違いも歩いてみれば体で実感できます。

一緒に散歩しながら「家からあの公園までだいたい500mよ。」とか車で出かけた際にも「次の料金所まで30kmだよ。」などと日常生活の中で語りかけていくと子どもは単位とともに距離の感覚がつかめるようになります。重さや時計の見方も生活に必要なから覚えられます。勉強と生活は切り離して考えられません。学力を支えているのは生活環境であり、家庭での豊かな生活体験なのです。



音読が大切です

本を黙読しただけでは理解しづらい文章も、声に出して読むと頭に入ってくるがあります。これが、音読の効果です。

子どもたちに教科書を読ませると理解が深まることは科学的にも証明されています。東北大学で脳科学を専門に研究している川島隆太教授によると『人間の活動の中で最も脳を活性化させるのが音読』だそうです。口や腹筋を使って声を発し、その声を耳で聞きますから、目で文字を追う黙読に比べて体の多くの部分を使っています。つまりそれだけ脳を使うことになりま

す。学校の宿題の音読学習で聞いてくれる人がいると、わからない字を読み飛ばしてしまったり、誤った読み方をしたりしても正してもらえます。一読しただけでは何を問われているのかわからない算数の問題も、何度か声を出して読んでいるうちに問題の意味がわかるようになります。

逆に勉強に遅れをとってしまっている子は、例外なく教科書をきちんと読めません。ポツリポツリと雨だれ式なので何が書いてあるのかわからず、その結果ついていけなくなります。そういう子どもこそ教科書をしっかりと読ませてください。最初は親が手本を示してもいいと思います。何回か読むことで、わからないことが少しずつ整理されてきます。つまずいているところ、わからないところはどこか、ポイントをはっきりさせるためにも音読は必要なのです。



会話力を育てる

食卓は、コミュニケーションの場です。まず、テレビを消して子どもの話にきちんと耳を傾けてあげてください。子どもは、話したがり屋です。1日の出来事、うれしかったことや困ったことなどを聞いてほしいと思っています。何か打ち明けるかもしれないし、様子が変わると気づくこともあるでしょう。そのとき、親が適切な助言をし

てあげれば問題は、大きくならずすみませす。ところが、テレビが食卓の中心に居座っていると、子どもはそれに慣れてしまい、おしゃべりをしなくなります。

他人とコミュニケーションをとる力を育むのが、会話のある食卓です。テレビをまったく見るなどとは言いません。しかし、食事は家族のコミュニケーションの時間です。子供が親からいろいろなものを吸収し伸びる力をつける場でもあると思うのです。

